



年頭にあたり

鉦路丹頂農業協同組合

代表理事組合長 武藤 清隆



組合員並びに役職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。希望に満ちた平成二十九年の新春を、御家族お揃いで迎えられました事を心よりお慶び申し上げます。

昨年は、二つの不順(不純)に振り回された一年でありました。一つ目の不順は天候です。春先までは、前年の勢いをそのままに生乳生産も順調に推移し、年度末には過去最高の十万四千トン超えも視野に入っていました。ところが一番草収穫時からの低温・長雨さらに追い打ちを掛けるように八月中旬から九月に掛けて襲来した台風により、牛舎施設等に甚大な被害を被る事になりました。特に長期に亘る停電により、乳房炎等の乳牛の疾病の多発により、生乳生産が激減した他、組合員の皆様におかれましては、その事後対応にも大変な御苦労があったかと思えます。被災された組合員の皆様には改めまして心よりお見舞い申し上げます。農協としましては被災された組合員の経済的損失を少しでも

も低減すべく期中にて、三千万円余の対応をさせて頂きました。しかし今年の異状気象の影響を受けるのは今年ではないかと考えております。影響を最低限におさえるため早めの対応が求められます。異常といえ、昨年の個体価格も想像を超えるものがあり一見酪農を営む我々にとりまして、大きな追い風とも受け取れますが、度を越すとその歪みが、どこかで現れてくる事が想定されます。この背景には乳牛資源の極端な減少があります。その一つの要因として挙げられるのがF1等の授精の増加と言われています。将来の乳牛資源確保から言えば当然雌雄選別精液をはじめとする乳牛の種を付けるべきですが、現状を考えた時どうしてもそう出来ない事情があります。やはりここは、我々にとって基本給である牛乳販売によって経営が成り立つ環境、仕組みがなければこの悪循環を断ち切る事は出来ないものと考えています。農協として、ここはしっかりと主張

して参りたいと思います。

二つ目の不純は規制改革推進会議から突き付けられた指定団体制度改革と農協改革です。指定団体制度は、制度がスタートしてから半世紀が過ぎ、酪農家の自由な発想・所得向上を妨げているとの事で、その有り方が問われたものです。しかし、この制度のどこに問題があるのか現場の我々にとって理解しがたい理由のもと、抜本的改革をするとの事でありました。又、農協改革では、組織制度の即時廃止あるいは金融を営む農協を三年以内に半減などという暴論を持ち出してきました。いずれの制度・事業も我々にとつて又地域にとつて、無くてはならない制度事業であり、何故、民間団体組織に政府が手を付けてくるのか、全く理解に苦しむところです。幸い最終決着とまでは行きませんが、大筋ではこれまで通りという形に胸を撫で下ろしているところです。この裏には、農家の所得増の為に言いつつ農協組織の持つ金融共済の資産に手を付けようとする考えが見え隠れして仕方がありません。全く動機が不純としか言えません。しかしこの先においても、この論議が再燃してくる可能性は充分あり、注視していく必要があると考えています。しかし逆に考えれば指定

団体制度・組織制度について改めて我々に必要不可欠な制度である事を再認識出来た事も事実です。昨年は本当に色々な事があった一年でありました。幸い農家経営はかつてない程明るさが見え、労働の対価にふさわしい所得を目指している我々にとつて将来展望が開きかけた一年でもありました。どうか今年はしっかりと足元を見つめつつ追い風を最大限に生かせるそんな一年にしたいものです。

昨年、鉦路丹頂農協も、平成十八年六月に合併後満十年を迎える事が出来ました。これも偏に組合員をはじめ関係機関の御理解、御協力の賜物と感謝申し上げます。幾多の困難を乗り越え合併を成し遂げた先輩諸氏の想いは、農家を守り職員・地域を守るといふ強い信念があったからこそと思う時、我々次代を引き継ぐものとして、その想いを忘れる事なく事業推進に当たつて参りたいと考えているところです。

農協として今年もあらゆる手段を講じながら、更なる生産性向上と可処分所得増に向け役員一同全力で対応して参ります。結びに、今年一年が皆様にとりまして平安で、更なる飛躍の年になります様、御祈念申し上げます。御挨拶と致します。



年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章



組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい平成29年の新年を迎えられたものよりお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに對して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先からの天候不順、8月中旬から相次いで上陸・接近した4つの台風の影響により、河川の氾濫、農地の流出、関連施設の損壊、停電による生乳廃棄など、全道各地で甚大な農業被害が発生しました。現在もその傷跡は依然として深く残っており、復旧・復興に向けた懸命な努力が続けられているところです。

今後とも、JAグループ北海道は、組合員の皆様が夢と希望を持つて営農と生活が続けられる環境

を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートいたします。

また、全農改革を始めとする農協改革並びに指定生乳生産者団体制度のあり方を含めた農業競争力強化プログラムの取り纏め、次期米国大統領ドナルド・トランプ氏のTPP離脱・日米二国間交渉の表明、EUとのEPA交渉の動きなど、我が国の農業・JAにとって先行き不透明感が増大する情勢変化があった一年でした。

JAグループ北海道は、今後とも必要な農政運動や国民理解へ向けての情報発信、JA経営の基盤を強化し、組合員の皆様の不安を払拭し、持続可能な北海道農業の確立に向け、万全な対応を図って参ります。

さて、現在、JAグループ北海道は、第28回JA北海道大会のメインテーマである「北海道550万人と共に創る「力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現に向け

た決議事項に基づき、その着実な実践を図っているとす。

昨年はJAグループ北海道の実践状況について、全体共有を図るとともに実践への機運を高め、JAグループ内外に実践状況を発信すべく、JA北海道大会実践フォーラムを開催致しました。

引き続き、JAグループ北海道の英知を結集し、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAグループ北海道を目指して参ります。

関係各位の特段なるご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

一方、農業情勢では、世界規模での異常気象の発生、人口増加、経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は常に不安定な要因を抱えており、我が国として、先を見据えた中で食料自給率の確保などによる食料の安全保障体制をいかに確立していくかが問われています。

言うまでもなく、農業は、食料の安定供給という、国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っている生命産業であり、その役割は未来永劫変わることは

ありません。

JAグループ北海道は、その責任感と自負心のもと、あらためて協同と相互扶助の精神に立ち返った中で、現下のさまざまな課題を克服すべく、力を合わせていく時であります。さらに農業・JAに対する幅広い理解と共感を得るべく道民550万人サポーターづくりの取組みを積極的に進めながら、自己改革を加速させ、長年にわたり先人が築き上げてきた本道農業並びにJAの基盤をさらに発展させ、後世に継承できるように努力して参ります。

結びになりますが、今年の干支は丁酉（ひのととり）です。

一説には、丁は、「安定する」という意味があり、酉は「果実などが成熟し実る状態」を表しているとのことであります。

今年は、この酉年にあやかり、天候に恵まれ実り多い安定した一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。



新年にあたり

釧路丹頂農業協同組合

代表理事専務 **對木 範登**



新年あけましておめでとございます。

組合員の皆様には、平成二十九年の輝かしい新年をご健勝でお迎えるの事とお慶び申し上げます。日頃より組合員の皆様及び関係機関の皆様におかれましては、特段のご指導・ご協力を頂いております事に心から感謝とお礼を申し上げます。

五月の通常総会をしまして引き続き専務を受け賜る事となりました。今後共どうぞよろしくお願ひ致します。

昨今、目まぐるしく変化する国際情勢と日本の農業政策の中、米国のトランプ次期大統領がTPP離脱の意志を表明すると同時に、日米の自由貿易協定（FTA）などを強く迫る事を示唆しています。

一方、EUとの経済連携協定（EPA）交渉をめぐり政府内で自由化の水準など一定の方向性を定める「大筋合意案」が加速しています。

政府の規制改革推進会議、農業WGの唐突な「農協改革案」は部分修正等により「理不尽で不合理」な提案を押し戻す形となったものの、今後我々JAグループは、今までの経過を踏まえつつ、自己改革・諸問題等しつかつりした方針を示し、地域農業の振興や、農協運営に影響がない様強く政府に訴えていかなければと考えます。

さてJAにおいては、一昨年の異常気象に引き続き八月に連続して上陸した台風の影響で数多くの農場施設・農地等が被害に遭われ、組合員の皆様には改めてお見舞いを申し上げます。

生乳生産状況は「北海道生乳基盤・安定供給強化対策」の増産基調のもと順調に推移しておりますが、台風による長期停電等が影響し急激にブレーキがかかり回復の兆しが見えてこない状況にあります。

又、生乳生産基盤となる粗飼料については、春からの低温による発育不足や夏場の天候不順と台風被害も加わったため自給飼料不足、品質の低下等から、新年度の生乳生産への影響を懸念する所です。

一方、組合員の経済状況は、クミカン年度での乳代単価の値上がり、乳量の増産と個体販売価格が一年を通して高値で推移した事で大幅な増収となり良好な結果となりました。

新年度の営農計画では、酪農畜産の生産環境のさまざまな変化や厳しさが予測される中「北海道生産基盤・安定供給強化対策」の増産基調のもと「土・草・牛」の計画的な再構築が図れる様、畜産ク

各種補助事業、JA助成事業等を含め地域の行政・関係機関と連携し、畜産農家の生産性と、収益性の向上を目指して参りたいと考えております。併せて新規就農者を含む担い手後継者の育成等の対策を確立して参ります。

一昨年、JA北海道大会で決議された『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」』の推進を通して、更には、平成三十年までの「地域農業振興計画」「JA中期経営計画」の達成のため取り組んで参ります。

今後共、JAが組合員の皆様の期待に応え、農業経営の安定と向上を目指し、役員一丸となり組合員の皆様と決意を新たにして参る所存でありますので引き続きご指導、ご協力を賜ります様お願い申し上げます。

皆様にとりまして、本年がご健勝でご多幸の一年となります様、心からご祈念申し上げます。御挨拶と致します。

新年のご挨拶



釧路丹頂農業協同組合酪農振興会

会長 折笠 文則

新年明けましておめでとうございます。

酪農振興会々員の皆様にはご家族揃って輝かしい平成29年を迎えられた事と思います。旧年中は当振興会の事業に対しまして会員の皆様をはじめ諸関係機関のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

お陰様で昨年10月に鶴居地区で開催されたパークゴルフ大会は、雨天のため懇親会のみで開催となりましたが、炭火を囲みながら会員相互の情報交換ができ、楽しい時間を過ごすことができました。11月開催の視察研修では「酪農と乳の歴史館」と「大規模搾乳ロボット農場」を見学し、先人達の苦難や功績を振り返りながら、これから進む北海道酪農の一つの形を実際に感じ取ることが出来ました。さて昨年も生乳生産が順調に推移し、当農協では目標の10万トン超の実績になりました。ただ長雨や台風の影響による粗飼料の収量減少や品質低下で、今年は生乳生産量をどう維持するのが私達酪農家の課題であります。

酪農振興会でも生乳生産の維持、経営安定の一助になるよう2月に「酪農祭」を開催し、酪農技術に関する講演と懇親会を予定しております。また懇親会の中で平成28年の良質乳出荷農場の表彰式も予定しておりますので、会員皆様の参加をお待ちしております。

本年も酪農振興会の事業を通して会員相互の良い関係が更に広がり、強い結び付きになるよう事業を進めて参りますのでどうぞよろしくお願いたします。今年一年皆様方のご健康とご多幸を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

新年にあたり



釧路丹頂農業協同組合青年部

部長 石黒 隆行

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。又、旧年中におかれましては、青年部活動に対しまして、組合員の皆様、関係機関の皆様にご支援ご協力を頂きましたことを深くお礼申し上げます。

釧路丹頂農協青年部十周年目を迎えた昨年、例年行なっている乳製品消費拡大運動では、今年度よりコープさっぽろ釧路星ヶ浦店等で実施し、大変ご好評を頂きました。生産者と消費者の繋がりを深め、「食」や「命」の大切さを伝える活動を行なって参りました。今後も生産者と消費者の繋がりを今以上に大切にしていききたいと思っております。

厳しい農業情勢の中、私達青年部は命を支える食と農業の大切さを多くの方々に伝え、農業の魅力と重要性を発信し、活気に満ちた青年部を目指していききたいと考えております。最後になりますが、本年も組合員とご家族そして関係機関の皆様方には、ご指導とご協力の程をお願い申し上げます。今年一年皆様方のご健康とご多幸を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



釧路丹頂農業協同組合女性部

部長 吉田 鈴子

新年明けましておめでとうございます。ご家族の皆様お揃いで新年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。旧年中は、女性部活動に対しまして特段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年釧路丹頂農協女性部は創立十周年を迎え、五月三十一日には、ANAクラウンプラザホテル釧路にて、記念交流会を開催し、部員同士の親睦を深めました。又、例年行なっております牛乳乳製品消費拡大運動ですが、昨年はコープさっぽろ釧路星ヶ浦店で実施させて頂き、消費者へのPRを通じて「安全・安心な牛乳」と「食と農の繋がりがや大切さ」を伝える活動を行なって参りました。

本年におきましても、楽しいJA女性部の組織作りを目指し、部員皆さんの協力を賜り、食と農を基軸とした新しい活動にチャレンジし、JA運営にも参画、邁進して参ります。最後になりますが、本年も関係機関の皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。今年一年皆様方のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

ＪＡくしろ丹頂組合員組織

あけましておめでとうございます。

釧路丹頂農協女性部

部長 吉田 鈴子

釧路丹頂農協青年部

部長 石黒 隆行

釧路丹頂農協酪農振興会

会長 折笠 文則

釧路丹頂和牛改良組合

組合長 成田 俊英

釧路丹頂農協馬事振興会

会長 江崎 勝三

釧路丹頂農協乳牛改良同志会

会長 瀧澤 一成

外国人研修生受入協議会

会長 松井 俊治

幌呂大型機械利用組合

組合長 大碓 晋二

鶴居宮農組織代表者協議会

会長 千葉 喜好

鶴居村乳牛検定組合

組合長 松井 俊治

JAくしろ丹頂組合員組織

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

鶴居村酪農ヘルパー利用組合

組合長 高橋文雄

白糠町乳牛検定組合

組合長 影山 純

白糠町酪農ヘルパー利用組合

組合長 野上 敏

音別町酪農ヘルパー利用組合

組合長 菅原善伯

白糠町野菜生産組合

組合長 細谷照雄

白糠町農民組合

執行委員長 江崎照夫

白糠町農村青少年クラブ

会 長 五十嵐 大地



JAくしろ丹頂 年始日程表

年月日	各地区の事務所			販 売		家畜改良 鶴居・幌呂 白糠・音別	生 乳	哺育育成 センター	幌 呂 育成牧場
	管理・共済	金 融	営 農	鶴居・幌呂	白糠・音別				
平成29年 1月1日(日)							通常業務		
1月2日(月)						業務始め*			
1月3日(火)									
1月4日(水)		業務始め		初生集荷・業務始め					
1月5日(木)				一般市場					
1月6日(金)	業務始め		業務始め				↓	↓	↓

年月日	購買・鶴居			購買・幌呂			購買・白糠		購買・音別		
	生活店舗	給油所	資 材	生活店舗	給油所	資 材	給油所	資 材	生活店舗	給油所	資 材
平成29年 1月1日(日)											
1月2日(月)							業務始め*				
1月3日(火)		業務始め			業務始め*						
1月4日(水)	業務始め 午後5時まで						午後6時まで		業務始め 午後5時まで	業務始め	
1月5日(木)	午後5時まで						午後6時まで		午後5時まで		
1月6日(金)			業務始め	業務始め		業務始め		業務始め			業務始め

*午前中のみ営業となります。

営業日 休業日

1/6(金)は、全業務午後4時までの営業となります。
金融ATMは平常営業をしております。

・万一、交通事故が発生した時は、フリーダイヤル(☎0120-258-931)に電話をして下さい。事故の受付とアドバイスをしてくれます。

◆鶴居地区の皆様へ

- ・生産資材に関することは、田村課長(090-7647-4585)に連絡して下さい。
- ・万一、配合飼料が無くなった時は、大松運輸(57-8388)もしくはホクレン(岩谷職員 090-7642-0725)に連絡して下さい。

◆幌呂地区の皆様へ

- ・生産資材に関することは、泉課長(090-7055-1541)に連絡して下さい。
- ・給油スタンドに関することは、泉課長(090-7055-1541)に連絡して下さい。
- ・万一、配合飼料が無くなった時は、全酪連釧路事務所(白石職員 080-5471-3655)か(岡田職員 080-6540-4620)に連絡して下さい。

◆白糠地区の皆様へ

- ・生産資材に関することは、大石課長(自宅6-2734 携帯090-1640-0376)に連絡して下さい。
- ・給油スタンドに関することは、給油所(2-2084)に連絡して下さい。
- ・万一、配合飼料が無くなった時は、幸永運輸(0154-57-2777)に連絡して下さい。

◆音別地区の皆様へ

- ・Aコープは1月4、5日は午後5時までの業務となります。
- ・生産資材に関することは、林課長(090-8905-1705)に連絡して下さい。
- ・万一、配合飼料が無くなった時は、幸永運輸(0154-57-2777)に連絡して下さい。
- ・給油スタンドに関することは、若狭係長(自宅 6-3707 携帯 090-4870-9101)に連絡して下さい。

◆人工授精業務、年始の対応について

- ・1月2日の人工授精業務につきましては、午前9時30分までの受付分(厳守)対応となりますので、よろしくお願い致します。

編集後記
EDITOR'S NOTE

□新年明けましておめでとうございます。現在の農業情勢は激変の時を迎えておりますが、JA北海道大会で決議されました、「協同の力で実現する農業所得の20%増大、新規担い手の倍増、道民と食と農でつながるサポーター550万人づくり」の実現へ向け、組合員及び地域の皆様方とともに、今後におかれましても着実に実践して参る所存です。今年は何年です。私達JAのシンボル「タンチョウ」のように、大地に根ざし環境を守り豊かな未来を切り拓く決意です。本年が皆様方にとりまして、実り多い年となりますよう心からご祈念申し上げます。

表 紙

□表紙の写真は、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリで撮ったタンチョウです。極寒の中、絆を確かめ鳴き合う鶴の舞いをみせてくれました。